
If in pop'n music

D - Dream

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I f i n p o p n m u s i c

【Nコード】

N 3 3 0 6 Z

【作者名】

D - D r e a m

【あらすじ】

ポップンの俺的二次創作短編集的なものです。各話は（ほぼ）繋がっておりません。もしも要素や俺設定要素が特に強いと思われる作品にはタイトル名に*をつけてあります。また、作者の気まぐれで大量に更新したり、長期間放置したりすると思いますが、ごゆるりとお付き合い下さいませ。（タイトルへの（文法的）ツッコミは胸の奥へしまってください）

*戦う・魔法・道具・逃げる

*もしもポップンがロールプレイングゲームだったら

名前：六ろく

職業：書道家、侍

装備：大見解（筆）、一撃必翔（刀）

技能：男々道（物理）、雪上断火（刀）、路男（特殊）

所属：D e s - R O W ・組

能力：攻89 守65 速55

名前：鬼おに - B e

職業：妖霊

装備：なし

技能：深超深T I O N（特殊）

所属：あさき家

能力：攻56 守19 速28

名前：？（はてな）

職業：神の付き人

装備：トライデント

技能：ニエンテ（必殺）

所属：MZDを働かせる会

能力：攻 守 速

「神ってば、？をひいきしすぎー！」

「だって、？はかわいいもんな」

「ハテナは？」

「ハテナは仕事仕事うるさいし、怖い」

「……ご主人ん？ 仕事が溜まってますよ？」

「ハ…… ハテナ……」

「おしゃべりしてる暇はないんですよ？ 仕事が終わってからにし

ましょうねっ？」

「ちよ、まっ…… イヤアアア!？」

「……神、逝ってらっしゅい」

「……神の悲鳴って、なんか女の子みたい……」

凜として鳴く猫の如く

「ノワール、どこ行ったのー？ 出ておいでー」

金髪の少女が一人、飼い猫の名前を呼びつつ歩いていた。

「どうしたの、お嬢さん？」

長めの髪。無精髭。

少女に声をかけたのは、あまりにも胡散臭い匂いがする男だった。

「飼い猫が迷子になってしまって。もうすぐお稽古の時間なのに」

少女は見知らぬ男に話しかけられたにもかかわらず、躊躇なく口を開いた。

「それなら、かわりに探しますよ」

「いいんですか？」

「俺、なんでも屋してるんです。Mr・KKのなんでも屋っていうね」

男は商売用の愛想笑いなのか、にっこりと微笑んだ。

「じゃあ、お願いしようかしら」

「クライアントであるお嬢さんの名前を伺ってもいいですか？」

「ベルです。えつと……　KKさん？」

「おまかせください。ベルさん」

KKはもう1度微笑んだ。……どちらかと言つと、ニヤリといった感じの微笑みだったが。

「ノワールー。どこだー」

ニヤー

「そこか！　待て、猫！」

ニヤーン

どうやら、猫の方が1枚上手なようだ。駆け出したKKの腕の間を黒猫がすり抜ける。

いや、動物の本能がKKの本分をかぎとつた、とでも言うべきなのだろうか。

「……ベルさんとの待ち合わせまで、あと10分か」

KKの雰囲気がつつと変わった。

「このお店で待ち合わせだったわよね」

稽古事の終わった私は、そのまま待ち合わせ場所の店へと向かっていた。

『Days』そう掲げられた看板を見て、軽く深呼吸をするとドアを開けた。

「おや？ 初めての方ですね。……ベルさんですか？」

入るなり話しかけてきたのはKKではなく、黒髪の青年だった。青い左目に黄色い右目……そのオッドアイに、なぜか懐かしさを覚えた。

「はい。KKさん……猫を連れた人が来てませんか？」

「来てますよ。KKさん、ベルさんが来ましたよ」

奥の方へ青年が声をかける。KKの返事の変わりに、猫の鳴き声が返ってきた。

「あ、ベルさん。ノワールはこの子であってますか？」

姿を現したKKの腕には、黒猫が抱かれている。

「ええ。ありがとうございます」

KKとかわって、猫を抱いた。飼い主の腕はやはり落ち着くのか、ノワールは少し眠そうにあくびをした。

「あの、お礼に……」

財布を出そうとすると、KKはそれを制止した。

「お礼はかわいいお嬢さんのその笑顔で十分だよ。じゃあ、また」

「あ、ありがとうございます！」

去っていくKKに、慌てるようにお礼を言い直した。

心なしか、顔が熱い気がする。

「彼に惚れると大変ですよ、ベルさん」

笑い混じりのそんな声が、後ろの店主から聞こえた気がした。

いつか宇宙（ルビ・ネラ）へ（前書き）

本文中では名前は出てませんが、ライトの話です。

いつか宇宙（ルビ・そら）へ

空が好き。

クジラも好き。

好きな空に近づけるから、飛行機はもっと好き。

「いつか僕の作ったクジラみたいに大きな飛行機に乗って、空を飛ぶんだ」

僕は夢を聞かれると、絶対こう答える。

だって、空が好きだから。

近づきたいから、

少しでも近づきたいから、飛行機的设计図を描く。

難しいことはわからない。

きっと、僕の飛行機はまだ飛べない。

でも紙に“夢”を広げるのは楽しい。

今日も僕の夢を製図に描いていく。

「はやく空に行きたいな」

「いや、宇宙だろ」

イアラムセの訂正が入った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3306z/>

If in pop'n music

2011年12月13日10時50分発行